“やっちゃえ”鳴高！ ～鳴高生のみなさんへ校長メッセージ～

鳴尾高等学校 笑顔 夢 プロジェクト

7月号

意識して〇〇する！

【鳴高トピックス】※詳しくは「シン・ナル♪校長」で

back number

☑ 鳴高祭(R7.6.12 木、13 金)
テーマ「常熱（じょうねつ）」
今年の鳴高祭は、正門付近の飾り付け、顔はめパネル、会場案内板、オープニング・エンディング動画と近年にない新しい試みが随所にありました。1，3年生のステージ、2年生や各部等の展示内容もクオリティーが高く、（模擬店がなくっても）他校に自慢できる鳴高の新しい伝統を創り上げました！

☑ 第１回学校説明会、国際文化情報学科説明会（R7.6.14 土　午後）
リハーサルでは少し不安がよぎった校長。そこは鳴高生！　本番ではバッチリ決めて、鳴高生が主役のこれが鳴高！をしっかりと伝えることができました。

Future

☑ 期末考査（R7.7.2 水～8 火）
☑ 保護者会
２年生（R7.7.3 木）
１年生（R7.7.4 金）
☑ 夏期休業
（R7.7.19 土~8.31 日）
☑ 鳴高ナビたんキャンプ
（R7.7.23 水～25 金）

7月号のNHGsテーマ ： ゴール3

1　なぜ、このテーマにしたのか

校長の my go-to なものは？と聞かれたら、アルトサックスとカーブス（女性専用ジム）なのですが、 アルトサックスは、レッスンを始めて4年 9 ヶ月、カーブスはトレーニングを始めて 2 年 2 ヶ月になり、その両方に共通するキーワードが「意識して〇〇する！」なのです。アルトサックスのレッスンの先生からは「ダイナミクスを意識して吹いて！」と言われ、カーブスのコーチからは「使っている筋肉を意識してマシンを動かして！」と言われる度に、ただ漫然とやるのではなく、「意識して〇〇する！」ことで効果が違ってくるのだとしみじみ感じています。ちなみに、アルトサックスでは“ずぶの素人”から始めてステージ3（上級）の入り口、カーブスでは10 kg 体重減、骨格筋率増、体脂肪減に成功しました♪

＜質問コーナー＞

【Q】校長先生はなんで教師になったんですか？

※６月号に引き続きです。

【A】平成元年度、兵庫県の西の端、岡山県との県境にある県立佐用高校で採用されました。人生初めての一人暮らし、しかも四方八方が緑だらけの超田舎暮らし、「～やねんね。」と話せば「ねんね♪ねんね♪ねんね♪」と面白がって繰り返す生徒達。当初は「石の上にも三年」と挑んだ教員生活でしたが、そのうちに生徒のみなさんと関わる楽しさに目覚め、４年後に佐用高校を去るときには「第２の故郷」と名残惜しむまでになりました。

さて、鳴高生のあなた！
期末考査が終われば、長～い夏休みがスタートします。
「在りたい自分」の実現のために、勉強？部活動？はたまた夏休みにしかできない課外活動？etc. 夏休みが始まるまでに、一度自分と向き合って、あなたがやりたいことは？と考えてみてください。
その時に、スタサプなどで配信される様々な情報をアンテナを高～くして、あなたの心にヒットするものがあったら**“やっちゃえ”鳴高！**の精神でやっちゃいましょう！！

Have a nice summer vacation♪

2　その上で、鳴高生に伝えたいメッセージとは？

“やっちゃえ”鳴高！NHGsのゴール3「在りたい未来（自分・社会）」を実現するために、まず、あなたの「在りたい〇〇」をイメージしてみましょう。その実現のために、あなた自身の頭で何を考え、どう行動していくのか？「D.A.F.鳴高！　６月号」の『アントレプレナーシップ』に含まれる3つの要素！を参考にしながら、「D.A.F.鳴高！　９月号」も参考にして、自分に当てはめてシミュレーションしてみましょう。９月号では部活動を例にシミュレーションをしていますが、今年度、鳴高で次々と近畿大会、全国大会に出場を決めているのは、決して運が良かっただけではないですよね。

▸【美術部】全国高等学校総合文化祭　かがわ総文祭 2025　出品
美術・工芸　立体（彫刻）　作品名「Circle＝Life of Raptor」　3-8 角田さん

▸【陸上部】男子走幅跳　兵庫県予選1位→**近畿大会出場**
近畿地区予選4位→**全国大会出場**　2-5 河さん

▸【放送部】第 72 回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会
アナウンス部門　優秀賞→**全国大会出場**　3-1 髙田さん
創作テレビドキュメント部門　作品名「継」　優秀賞→**全国大会出場**
代表者 2-2 山口さん他放送部員

▸【水泳部】県総体　200m バタフライ　決勝　6 位→**近畿大会**　2-6 田村さん

水泳部の田村さんは1年生の時にも近畿大会に出場していますが、全国大会に進むその他の鳴高生は、昨年度に自身の「課題」を具体的に意識して打ち手を考え、意識して実行（挑戦）してきた、その結果（成果）が全国大会に繋がったのだと思います。